

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立小山小学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 東久留米市の学力調査によると、「作文を書く・推敲・(正答率36%)」に課題が見られ、自分の思いや体験したことを正しい表記方法で記述することが難しいと考えられる。 また、同調査において、「説明文、物語文を読む・要点の読み取り(正答率62%)」に課題が見られた。文章の表現が何を表しているのかを考えて表現する力が不足していたことと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章表現の力を身に付けさせるために、文章を書くことに慣れるようにしていく。その際は、書いた文章を読み直す視点を明確にし、自分で確認する他にペアやグループで読み合う等の活動も入れ、間違いに気付けるようにしていく。 物語文や説明文を読み取る力を身に付けさせるために、言葉に注目させる授業を行い、「なぜその言葉が使われているのか」を意識させていく。来年度は、正答率が平均で70%を目標とする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 東久留米市の学力調査によると、「ものさしで長さを測る(正答率53%)」「筆算式の完成・減法(正答率42%)」に課題が見られた。「四角形を見つける」「正方形を作る」等も正答率が市の平均より低く、図形分野全体を苦手としている傾向が強い。 計算に関しては、乗法九九や筆算の加法も市の平均より正答率が低く、基礎的な計算力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形や測定に関する力を高めていくために、ものさし等の用具を使って作図する機会を増やしていく。正しい測定技術を身に付けさせることで、図形を構成する要素に着目できるようにしていく。 基礎的な計算力を高めるために、授業開始時に短時間の練習を行う。その際には、必ず見直しをする点を指導する。来年度は、正答率が平均で70%になることを目標にしていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストで、男子は、握力、ボール投げ以外全て全国平均値を下回り、特に、反復横跳びは、全国平均値と比べて-10ポイント、50m走は-8ポイントだった。 女子も、ボール投げ以外全て全国平均値を下回り、特に、反復横跳びは、全国平均値と比べて-8ポイント50m走は-10ポイントだった。男女ともに、50m走と反復横跳びの値が低く、すばやさが必要とする運動の力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育では、走の運動だけでなく、体づくり運動やボール運動、鬼遊びなどの領域に力を入れて取り組む。陸上の外部講師を招聘し、すばやく動くためのこつを指導していく。来年度は、反復横跳び、50m走ともに、今年度より5ポイント以上上がることを目標とする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 観察や体験活動は、意欲的に参加している。観察日記、振り返りなどを書く際は、絵や文章の表現力の個人差が大きい。 ミニトマトのお世話を意欲的に取り組んでいるが、成長の過程を表現する力が不十分な児童がいる。 80%の児童が自分の考えをもって言語化することができる。(行動観察、ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> なるべく活動後に振り返りの時間をすぐ設けるようにし、想起しやすいようにする。困難な児童には個別に指導する。 ワークシート等を読み合う機会を作り、語彙や表現などを学び合えるようにする。 80%の児童が友達の観察のよさを認めることができるようにするため、観察日記の読み合いをする。